

蔦重の眼

歌麿・写楽と浮世絵黄金時代

しんじゅ
つるしゅ
蔦重の眼

歌麿・写楽と浮世絵黄金時代
Discovering Utamaro and Sharaku:
Tsurayasu's discerning eyes and the Golden Age of Ukiyoe

市川團十郎の竹村延之丞 寛政6年(1794) 個人蔵
婦女人性十五 文政4年(1821) MOA美術館
四代目松本幸四郎の山姥の首 寛政4～5年(1792～1793) 個人蔵
書花錦子圖(1巻) 寛政5～6年(1793～1794) MOA美術館
二代目黒田良之助(金髪) 寛政5～6年(1793～1794) 個人蔵
歌麿の眼(1巻) 寛政5～6年(1793～1794) 個人蔵



2025年 7月25日|金|～9月9日|火|
開館時間: 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時迄)
休館日: 木曜日(8月14日は開館)

MOA美術館
静岡県熱海市熱山町26-2 TEL: 0557-84-2511
<https://www.moaart.or.jp>



令和7年7月25日(金)～9月9日(火)

MOA美術館

展覧会概要

江戸時代、大都市に成長した江戸では、活発な経済活動を背景に町人の文化が開花し、庶民の関心事を主題とする浮世絵がめざましく発展しました。江戸中期には、浮世絵黄金時代の立役者である版元・蔦屋重三郎(1750 - 97)が登場し、喜多川歌麿、東洲斎写楽をはじめとする現在世界的人気を集めているスター絵師の才能が見出されました。

本展では、写楽作品のなかでも最高傑作と名高い「市川鯉藏の竹村定之進」や、世界で1枚しか存在しない「當世踊子揃 石橋」など蔦屋重三郎が手掛けた錦絵をはじめ、天明・寛政期から文化・文政期に活躍した絵師たちの錦絵や肉筆美人画を展観します。江戸町人文化の賑わいとともに花開いた黄金期の浮世絵の魅力をご堪能ください。

蔦屋重三郎 (1750 - 97)

江戸を代表する本屋。新吉原に育ち、安永3年(1774)頃から吉原大門口にて吉原細見(案内書)を販売、その出版も始め、天明3年(1783)日本橋通油町に錦絵草子問屋耕書堂を開きました。時代のニーズを読み、新しい才能を見出す慧眼に長け、写楽、歌麿らの錦絵とともに洒落本、黄表紙なども出版しました。

みどころ

みどころ1

蔦屋重三郎が手がけた貴重な錦絵

世界に1枚しか存在しない「當世踊子揃 石橋」をはじめ、蔦屋重三郎が手掛けた貴重な錦絵を展観します。



「市川鯉藏の竹村定之進」
東洲斎写楽
寛政6年(1794)個人蔵



「青楼名君自筆集 瀬川の図」
北尾政演
天明4年(1784)回向院



「大童山土俵入」
東洲斎写楽
江戸時代 18世紀 MOA美術館



「當世踊子揃 石橋」
喜多川歌麿
寛政5～6年(1793～94)頃 個人蔵

みどころ2 蔦屋重三郎の生きた江戸の今昔

蔦重の生まれ育った江戸名所絵を、現在の風景写真とともにご紹介します。



「富嶽三十六景 御厩河岸より両国橋夕陽見」
葛飾北斎 天保2年（1831）頃
MOA 美術館蔵



みどころ3 大画面で摺りのわざを体感！

高精細画像を大画面で投影。浮世絵黄金時代の卓越した摺りの技をご覧ください。



※写真はイメージです。

主な展示作品



「歌撰戀之部 物思恋」 喜多川歌麿

寛政5～6年(1793～94)頃

個人蔵 ※9/2迄展示

※展示期間は変更の可能性がございます

「歌撰恋之部」は背景を紅雲母摺（きらずり）とした5枚揃いのシリーズ。「恋」をテーマに、年齢や境遇が異なる女性の姿を描き出し、それぞれの恋の諸相が仕草や表情で描き分けられている。本作は、眉を落とした既婚の中年女性が頬杖をつき目を細めて物思いに耽っている姿を描き、シリーズ中随一の一品として評価が高い。

「市川蝦蔵の竹村定之進」 東洲斎写楽

寛政6年(1794)

蔦屋重三郎版 個人蔵

寛政6年5月に河原崎座で上演された「恋女房染分手綱」に取材した作品で、写楽作品の代表作である。不義密通の露見した腰元・重の井の父である丹波城主・由留木家抱えの能役者・竹村定之進が、その責めを負って切腹をする。この図は、城主の前で切腹する直前、または切腹後に苦痛を隠して現れる陰腹の演出場面と考えられている。背景は黒雲母摺。



「婦女人相十品 文読美人」 喜多川歌麿

寛政4～5年(1792～93)頃

蔦屋重三郎版 MOA 美術館

「婦女人相十品」は「婦人相学十脉」と合わせて八種が確認されており、揃物名こそ異なるが、関係性が強い、あるいは途中で改題されたものと考えられている。本作は、眉を剃り、前帯をしている既婚女性が、真剣に恋文を読んでいる態を描く。背景は雲母摺。

主な展示作品2



「四世松本幸四郎の山谷の肴屋五郎兵衛」 東洲斎写楽
寛政6年（1794）蔦屋重三郎版 MOA 美術館

肴屋五郎兵衛は「敵討乗合話」において宮ぎの・しのぶ姉妹の仇討ちを助ける仁侠役。四世松本幸四郎は歌舞伎の演技演出に長じ、容姿も優れていた。写楽は眉を寄せる神妙な表情や、腕を組みながら煙管をふかして思案する姿を見事に描き出している。背景には黒雲母摺が施されている。

「當世踊子揃 石橋」 喜多川歌麿
寛政5-6年（1793～94）頃 蔦屋重三郎版
個人蔵 ※9/2まで展示
※展示期間は変更の可能性がございます

「当世踊子揃」は踊りを得意とした芸者を描いた揃物で5作品が知られている。ともに吉原芸者などをモデルにしたようであり、正式な歌舞伎の扮装を省略している。「石橋」は能から影響を受けた獅子の舞踊で、牡丹の花の作り物と紅の八巻、長く垂れた髪で獅子を表現している。本作は世界にこの一枚しか存在が確認されていない貴重な作品。



「二代目嵐龍蔵の金貸石部金吉」 東洲斎写楽
寛政6年（1794）蔦屋重三郎版 個人蔵

寛政6年5月に都座で上演された「花菖蒲文禄會我（はなあやめぶんろくそが）」に取材した作品。石井源蔵と二人の弟が父の仇討ちする筋書き。金貸石部金吉は、借金を取り立てる残忍な悪役で、腕をまくって目を寄せ、口を横一文字に結び、見得をきった瞬間を捉えている。

主な展示作品3



「風流無くてな、くせ ほおずき」 葛飾北斎

享和期頃 (1801 ~ 04)

二代目蔦屋重三郎版 個人蔵

「無くて七癖」は癖がないといわれる人でも最低7つの癖はある、という意味のシリーズ。背景には白雲母が摺られた豪華な版で、可候の落款や画風から享和期頃（1801-04）の作品と思われる。髪を下ろした娘がほおずきを口にくわえており、手前の娘は歯を鏡に映して何かを拭い取ろうとしている。非常に希少な北斎美人大首絵の名品で現在世界で2枚しか確認されていない。

「青楼明君自筆集 瀬川の図」 北尾政演（山東京伝）画

天明4年（1784）正月

蔦屋重三郎版 回向院

一図に、当時の吉原の著名な遊女二人を、新造・禿ろを含めて描き、上部に遊女の自筆の狂歌や詩を彫り摺り出した七図揃いのうちの1つ。蔦屋が日本橋進出を記念して刊行したと思われる、翌年には画帖に仕立てられている。見開きが太奉書全紙の大きさ（大判2枚分）という贅沢な作品。本図は、正月の座敷における吉原でも格式高い松葉屋抱えの瀬川と松人を描く。政演（山東京伝）の代表作。



展覧会名: 蔦重の眼 歌麿・写楽と浮世絵黄金時代

会 期: 令和7年7月25日(金) ~ 9月9日(火)

会 場: MOA美術館 〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557-84-2511 URL: <https://www.moaart.or.jp>

開館時間: 午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時迄)

休 館 日: 木曜日 ※8/14は開館

観 覧 料: 一般2,000(1,800)円/高大生1,400(1,200)円・要学生証/中学生以下無料/要身分証明

※()内は20名以上の団体料金 ※障害者割引の適用は障害のある方とその付添者2名、合計3名様無料

※前売り券は、ホームページのオンラインチケット、お近くのコンビニエンスストア(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート)でもお求めいただけます。

交通: JR東海道新幹線・東海道線 熱海駅下車、駅前バスターミナル⑧番乗り場MOA美術館行 約7分終点下車

広報画像をご希望の方は、必要事項をご記入のうえメールまたはFAXにてお申し込みください。

Email: moaart-info@moaart.or.jp

FAX: 0557-84-2570 MOA美術館 広報宛て

広報画像申込書

MOA美術館 広報画像を希望します。

貴社名

ご所属

お名前

ご住所

TEL

FAX

E-mail

媒体名

掲載予定日／放送予定日

年 月 日 発売／放送予定

掲載概要、予定文字・ページ数など
(お分かりになる範囲でお願いいたします。)

貸出し希望画像番号

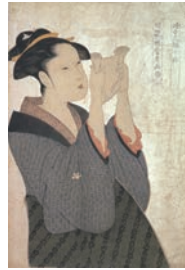
広報画像



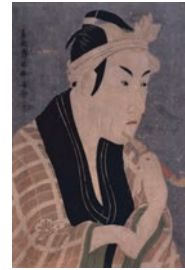
1



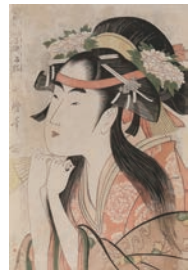
2



3



4



5

[1] 歌撰戀之部 物思恋 喜多川歌麿 寛政5～6年(1793～94)頃 個人蔵 ※9/2まで展示

※展示期間は変更の可能性がございます

[2] 市川鯉蔵の竹村定之進 東洲斎写楽 寛政6年(1794) 蔦屋重三郎版 個人蔵

[3] 婦女人相十品 文読美人 喜多川歌麿 寛政4～5年(1792～93)頃 MOA美術館

[4] 四世松本幸四郎の山谷の肴屋五郎兵衛 東洲斎写楽 寛政6年(1794) MOA美術館

[5] 當世踊子揃 石橋 喜多川歌麿 寛政5-6年(1793～94)頃 個人蔵 ※9/2まで展示

※展示期間は変更の可能性がございます

〈広報画像取扱いに関する規定〉

◎広報画像はすべてMOA美術館を紹介する場合に限りです。事前の申請・承諾なく二次利用しないこと。

◎広報画像を紹介する場合には、指定されたクレジットを併記すること。

◎トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いこと。

◎〈広報画像取扱いに関する規定〉に承諾のうえ、画像申込みを行うこと。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記入いただきました個人情報は、広報からの情報発信やご案内など必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。

MOA美術館
TEL 0557-84-2567

Email
moaart-info@moaart.or.jp